

幼保小 接続 はじめの一步

図工でつながる育ちと学び

監修：丁子 かおる



本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

日語の教科書情報
詳しくはWebへ！

日文

検索



※ QRコードは、株式会社デンソーウェブの登録商標です。
※本冊子掲載 QRコードのリンク先コンテンツは予告なく変更
または削除する場合があります。

未来をにう子どもたちへ
日本文教出版

わくわく、どきどき。
もうすぐ1年生!



5歳児クラスの部屋に置かれていた、本物のランドセル。ごっこ遊びで使いたい子どもたちの間で、取り合いが発生します。「じゃあ、自分でつくっちゃえばいいんじゃない？」という先生の一声で、自分だけのランドセルづくりが始まりました。

(取材：和歌山市立西脇幼稚園)



楽しみ! が詰まったランドセル

小学校での生活を想像しながら、アイテムをつくり足したり、友達と一緒に勉強ごっこをしたり。「つくる」「遊ぶ」を繰り返しながら、発展していきました。

小学校へ つなぐ

- あとがき... 32
- 入学当初造形のススメ... 30
- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿... 28
- 「○○させなきゃー」から「どうして○○するんだろう?」へ... 26
- 鼎談 幼×小 新一年生を迎える心構え... 22

幼児期を知る

- 子どもの中に、学びの芽生えがたくさん!... 2
- 0、1、2歳... 4
- 3歳... 6
- 4歳... 8
- 5歳... 12
- 園長インタビュー
- こんな子どもに育ってほしい... 16
- わたしのコレクション... 18
- お気に入りスポット... 20

もくじ

子どもの中に、 学びの芽生えがたくさん！

丁子 かおる（和歌山大学 准教授）

昨日まで憧れの「年長さん」だった

1年生は、新たな生活への期待と不安を胸に入学してきます。入学の直前までは「年長さん」として、園でいろいろな遊びに挑み、当番活動などに責任をもち、年下に優しく遊びを教えるなどして、「自分でできる」という自信と誇りをもって育ってきました。

遊ぶことと学ぶことはイコール

幼児期の子どもたちは、遊ぶことを通して学んでいます。たとえば色水遊びでは、異なる形の容器に移し替えると水の形が変わることや、色の濃淡、花びらをすりつぶすと色の出方が違うことなど、いろいろな気づきが生まれます。できた色から「太陽の味のオレンジジュース」とイメージを言語化し、たくさん並んだカラフルなジュースを見て、今度はお店屋さんを開こうと思いつきます。「メニューをかこう」「お金も必要だ」と友達とアイデアを出し合い、遊びをもっとおもしろくしようとします。遊びは自分が主体であるから楽しく、思い付いたことを実現できるから夢中になって遊びが発展し、実感を伴った学びが生まれます。ここには、算数、理科、国語、図工、社会など様々な教科の視点が含まれています。遊びを通して蓄積された体験は、小学校の学習につながる「学びの芽生え」です。「知ってる、やったことある！」という自信から学習をスタートさせることで、興味や意欲をもって取り組むことができます。

造形による表現を通して、子どもを知ろう

1年生にとって、自分の気持ちを言葉だけで伝えるのは難しいことです。子どもたちの心の声を聴くには、造形による表現活動がぴったりです。子どもがかいたりつくったりしたものには、好きなものや考えていることなど、目には見えない内面が表れます。これまでに見聞きしたもののや経験、培ってきた力を自然と知ることができます。

本冊子では、0～5歳児の造形にスポットを当て、そこでの学びや育っている力を読み解いていきます。子どもはすごい力を秘めた、ユニークな存在です。子どものことを知ると、見方が変わってくるはずです。園での子どもたちの様子を、一緒にのぞいてみましょう。

造形を通して、
0～5歳の
育ちと学びを
見ていこう！



0 1 歳 興味をもつ 自ら関わる

👉 自分から触って確かめる
ハイハイできるようになると、身の回りを探索して興味のあるものを触ったり口に入れたりして確かめる姿が見られます。気になったものに自分から関わり、繰り返し試したり遊んだりする中で、身体の筋力やバランス、未分化だった指先も徐々に発達していきます。乳児の好奇心を支えるのは、安心感を与えてくれる先生や保護者などの「安全基地」となる存在です。



👉 かきたい気持ちをもつ

0歳児でも自分で座れるようになると、紙の上のできたパスの跡を見て驚き、描画が始まることも。1歳では、線はまだ弱々しいですが、おもしろい、かこうという気持ちが見えます。2歳になると、全身のバランスや力の調整がとれるようになり、腕の力が強くなり、安定したストロークで連続する線がかけられるようになってきます。色を自分なりに選び、かきながら「(これは)パパ」と言葉を発するなど、自分なりのイメージもち始めます。



0 歳



1 歳

0, 1, 2 歳の発達

乳幼児期、体は著しい成長を遂げます。生後1年で体重は約3倍、身長は約1.5倍に。視力も徐々に発達し、生まれたときは色も分かりませんが、1歳でははっきりした色は認識できるようになります。視覚よりも、触覚や聴覚が優位な時期です。1歳頃には一人で歩けるようになり、2歳頃には走る跳ぶなどの基本的な運動が可能になります。2歳は自我が芽生える時期で、イヤイヤ期とも呼ばれます。言葉で自分の意志や要求を主張する姿も見られます。

👉 全身の感覚を働かせて

新聞紙に全身で埋もれて気持ちよさそうです。くしゃくしゃにする、ぎゅっと握る、びりびりと割くなど様々なアプローチで素材に関わり、柔らかさや心地よさを味わっています。

👉 友達が気になり始める

先生の仲立ちで同じ空間で遊ぶ中で、友達の様子を気にしたり、まねしたりする姿が見られるようになります。友達と遊ぶ楽しさを獲得していく時期です。

2 歳 体の感覚を働かせて



3 歳

思い付くままに かく・つくる・遊ぶ

♡ 楽しいな、もっとかきたいな
 いろいろな野菜や食べ物が大きなバスに乗っています。みんなにっこり笑って幸せそう、お話が聞こえてきそうです。形の輪郭をしっかりと捉えてかくことはまだ難しいですが、見守られながら、かくこと自体を楽しむことで自信をもち、表現する意欲へとつながっていきます。



♡ 用具との出会い

3歳は、はさみ、のり、テープなどの用具の使用が始まる時期。はさみは細長い紙をチョッキンと1回で切るところから始まります。切る、貼るなどの操作が加わり、造形も発展していきます。



♡ 一緒に遊びたい!

楽しそうにままごとをしている二人。気の合う友達と一緒に遊びたいという気持ちをもつ時期です。一緒に遊んでいるように見えて、実はそれぞれ違うイメージをもって遊んでいることもしばしば。ものの取り合いやけんかも起こりますが、それも大事な経験です。

🧠 3歳の発達

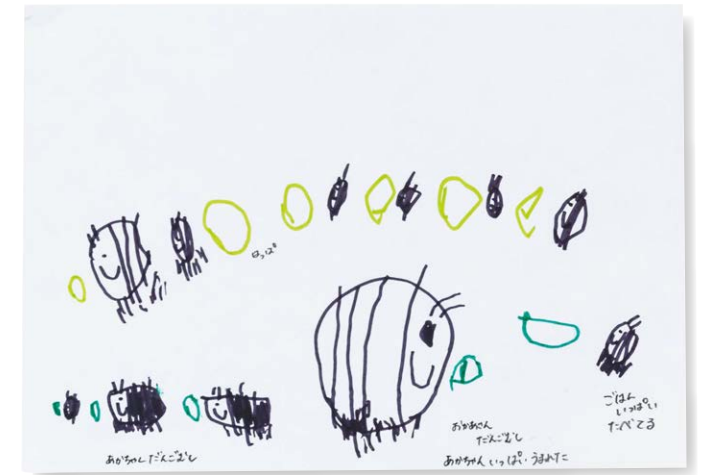
歩く、走るなどの基礎的な運動機能が育ち、体を動かして遊ぶようになります。語彙は1000語程度。生活経験をもとに、大人の行動や言葉をまねたり、ごっこ遊びで演じたりします。自分の好きなヒーローや動物になりきって遊ぶ姿も見られます。

♡ 感触を味わう

ひんやり、とろとろ、気持ちよさそうな泥団子を、大切に持ってしています。感触を味わい、じっくりと楽しむ姿が見られる時期です。こうした「感触遊び」で、気持ちを落ち着かせながら、素材の変化に気づいて試したり、葉っぱをのせてケーキに見立てたりして遊びを発展させていきます。



4歳 空想の世界で



♡ ダンゴ虫への想いを表現して

子どもたちが大好きなダンゴ虫がかかれています。大きくて優しく笑っているのがお母さんダンゴ虫、その周りに赤ちゃんダンゴ虫たち。「お母さんにも赤ちゃんにも葉っぱのご飯をかいてあげよう」。そんな声が聞こえてきそうな、ダンゴ虫家族の想像の世界がかかれた4歳らしい絵です。子どものつぶやきも、先生が書き留めています。

♡ 二人の世界

二人でお話しながら、空想の世界を共有しているのでしょうか。友達と一緒にかいて遊ぶ場面では、友達の絵をまねするなど、互いに影響し合いながら様子が見られます。たとえば同じ「花」をかいていても、「私のお花にはハチさんが飛んでくるんだよ」「私のお花はいろんな色なんだよ」など、それぞれの思いやイメージを発展させていきます。



4 歳

自分なりの こだわりを試す

並べる、積む、組み合わせる

いろいろな大きさや形の木片を使って遊んでいます。どこにどのように積むか、形の組み合わせや重心やバランスも試行錯誤している様子が伝わってきます。橋のような、乗り物のような形にも見えてきそうです。積んでいく中でイメージが生まれ、またイメージが変わって、と行為とイメージを往還させながら発展していきます。



こだわりをもった造形

右の泥団子に注目すると、表面にさらさらした砂がかけられて、つるつるできれいな丸い形をしています。左は途中過程でしょうか。4歳になると、手指の感覚が発達し、お団子が壊れないように優しく持ちながら、そっと砂をかける、磨くなどの細かい操作もできるようになります。こだわりをもって、何個もつくる「泥団子職人」が登場するのもこの時期です。

つくったものを 遊びに使う

自作のこだわりのアイテムを身にまとい、とっても嬉しそう。身に付けることで新たにつくりたいものを思い付き、さらに遊びが発展していきます。「見て見て!」とノリノリでポーズをとっている様子からは、自分のイメージを実現できた満足感や自信も見て取ることができます。魔女や忍者など、生活や絵本の世界などから知ったことをもとに、想像を膨らませて、友達と伝え合ったりつくったりして、現実とは違う想像の世界を広げていきます。

形や色にもこだわって

ぼうしやカバンをよく見ると、自分なりのイメージをもって、形を切ったり貼ったりしている様子が見えます。紫色や水色などの中間色も使い、自分の使いたい色を選んでいます。友達が気になる時期で、友達のつくったもののよさにも気づき、友達のまねをしながら自分なりの表し方を探っていく時期です。



4歳の発達

巧みに体を動かせるようになり、ブランコを立ててこぐ、スキップや縄跳びをするなどの姿も見られます。視覚も発達し、微妙な色の違いや美しさも認識できるようになります。使える言葉も増え、自分のイメージを言葉で伝えられるようになってきます。気の合う友達同士で遊ぶ場面も増えますが、互いのやりたいことが異なるとけんかも起きます。葛藤を繰り返して、気持ちに折り合いをつける経験をしながら成長していきます。

5 歳 イメージが響き合い、協同してつくる



個々のアイデアが集まり、全体のイメージに

協同して大きな船をつくっています。真ん中の仕切りは操縦室と客室を分けているのでしょうか、船内の内装にもこだわりが見えます。自分の経験も思い出しながら、「ここは入口にしよう」「ごはんを食べるところもつくりたい」などとそれぞれがアイデアを出し合っ、素材を選び、つくり方を考え、話し合っイメージを展開していきます。主体的な遊びを通して子どもたち自身が決めた目標であれば、何日も連続して工夫したり挑戦したりして達成していきます。イメージを持続して協力しながらつくりこんでいく様子も、5歳児らしい姿です。

材料用具を自在に使って

5歳になると、はさみ、のり、木工用ボンド、テープ、空き箱や自然物など、これまでの材料用具の経験を生かして活動する姿が見られます。園では、のりやボンドを使うときは小さめのタオル（お手拭き）で手に付いた汚れを拭き取りながらつくります。また、絵の具でかいたり塗ったりするときは、先生が用意した共同絵の具（溶き絵の具）を使います。





🌱 手指を使い、
細かく部分もつくる

まん丸の頭と体には、目や口、髪の毛、リボンなど細かいパーツが付けられています。手や指を使って、体の形とパーツをイメージに合わせて細かくつくっています。油粘土は多くの園で子どもたちが経験している、親しみのある材料です。感触、重さ、何度もいろいろな形に変えられる特性なども味わいながら楽しくつくっています。



5歳 自分なりに試す・
工夫する・挑戦する

🌱 自分のイメージを
実現する喜び

牛乳パックに青い色画用紙を巻き、羽を付けてつくったペンギン。カラフルな冠をかぶって、王様のペンギンでしょうか。くちばしの立体的な付け方からも、こだわりと造形性の発達が見て取れます。四角い牛乳パックから、どんな色、どんな形にするか考えながら「ぼくのペンギン」のイメージになるよう細部までこだわって、粘り強く取り組んでいます。完成したペンギンを見つめて、嬉しそうです。



🧠 5歳の発達

運動機能が発達し、ルールを守って集団で遊ぶこともできるようになります。友達と目的を共有し協同してつくことも経験します。言語の発達とともに思考力も高まり、出来事を理由と一緒に説明する様子なども見られます。絵では、自分なりのお話が膨らみ、モチーフや描写が細かくなってきます。クラスでは、遊具の片付け、動物の世話など集団生活における役割に自覚をもって取り組む姿や、年少児に親切にしようとする姿も見られ、年長児としての自信と誇りをもって生活しています。

🌱 生活経験から
遊びを発展させる

オレンジの信号機の上に、ピンクの信号機を向きを変えて取り付けています。道路や建物が見え、まちをつくっていることが分かります。「まち」について、自分が実際に見たことや知っていることをイメージして作り、遊びで再現しながら造形を発展させていく姿です。

🌱 教えてもらったワザから
発想することも

建物をよく見ると、のりしろで立てた円筒形や、階段折りにした色画用紙などがあります。先生が、このようなちょっとしたワザを教えてくれることもあります。円筒がつくれることを知ると、「ビルにしよう」「大きな木だ」と子どもなりのイメージが広がって造形も発展していきます。

園の先生方は、どんな思いをもって子どもたちと接しているのでしょうか？
子どもの成長への願いについて、二つの園にお話をうかがいました。



自己肯定力

関わり合う中で成長する

王寺 直子 園長

(認定こども園 あかさかランピニー園／佐賀県)

私たちの園は、いろいろな家庭の子どもたちが
等しく豊かな体験を通して学べる機会をもてる
よう先駆けて認定こども園になりました。園で
は、すべての子どもを否定しない、すべての子

担任の視点

子どもの変化や成長が感じられたとき、先生同士で喜びを共有し合っています。「○○ちゃん、今日やっと○○ができて、やったあ！っていう表情が最高にかわいくてね……」など、ちょっとした掃除の時間などに話しています。

どもを尊敬することを大切にしています。子どもはまだ知らないことも多いので、とんちんかんな発言をするときもあります。でも、「それは間違ってるよ」「できないよ」と否定しません。「どうやったらできるかな？」と大人も一緒におもしろがります。受け止めてくれる人が周りにいることで、自分の思ったことを言っているんだ、と自信をつけていきます。

園では、子どもたちの遊びと学びを発展させていくプロジェクトを、みんなで相談し協力しながら進めています。話し合っただけの意見や生まれた表現は、自分の考えていた形と同じものばかりではありません。気持ちに折り合いをつけ、相手を尊重しながら活動することで「思っていたのと違うけれどおもしろい」「自分が考えていた以上のことにも近づける」という小さな成長が生まれます。お互いが感動し合い、創造し合える経験です。自己肯定力を育むには、自分でやり遂げることと、人から「その考え、すてきだね」と認められることの両方が必要です。小学校でも、互いを尊重し協力してつくりだせる子どもであってほしいです。

本当の“主体性”

やりたいこともやり方も、自分で考える

清水 進 園長

(清心幼稚園／東京都)

私たちの園は、子ども一人一人の成長に向き合った保育に変わろうと思立ち、7年前から変革に取り組み始めました。たとえば、それまで「自由遊びの時間」と呼んでいた活動を「主体的活動」と改めました。「主体的活動」とは、子どもが自分の興味関心に集中し、探求し、実体験の中で力をつけていく活動のことです。保育者の仕事は、子どもが自ら学んでいけるような「環境」をつくることと、子どもが目を輝かせた瞬間を見逃さずに捉えることです。そうした保育の積み重ねで、年長になる頃には、園児135人・135通りの育ちの姿が現れてきます。保護者から「うちの子、こんな個性があったんですね！」と驚かれることもしょっちゅうです。



現在の教育は、子どもの主体的な学びを目指す
と掲げながら、実際には大人が指示する場面が多く、
子どもが自分で考えたり失敗したりする機会を奪ってしまいがちです。なぜなら私たち大人も、
そういう教育の中で育ってきたからです。そこから脱皮しなければなりません。私たちも7年かけて少しずつ、
保育者も保護者も一緒に育ってきました。子どもはほとんどない力を秘めています。小学校の先生方にも、
その力を信じて子どもたちとの関わり方を考えてほしいと思います。



担任の視点

私たちは「架け橋」みたいな存在かなと思います。子どもが目の前の何かに興味をもった瞬間をキャッチして、次のステップへつながるように、さりげなく気づきを促す声かけをしたり、活動が発展しそうな素材を用意したりしています。



あじさいを器に盛り付けて。
初夏のいい匂いがしてきそう。



絵の具で塗って、折って切って貼って。
いろいろ試した「跡」を飾りました。



形や色、触り心地の違いにも
こだわって選んだ石たち。



子どもたちが集めた「お気に入り」たちを見せてもらいました。
集めて並べて、新しい遊びが始まる予感。



窓辺のジュース屋さん。
材料は毛糸や花びら。
どんな味がするのでしょうか。



秋の園庭には
落ち葉がいっぱい。
じっくり吟味して、
自分だけの8枚をセレクト。



色とりどりの葉や実。
集めて並べて、秋のごちそう。



教室の隅、日が差し込む
窓際につくった三人のおうち。
中で楽しく遊んだ跡がたくさん見えます。



木の遊具の上で、
ずっと地面を見つめています。
「落ちてる葉っぱがいつ動くか見てた」とのこと。
なんともぜいたくな時間の過ごし方。



段ボールで囲んだ
自分だけの空間で、
読書に没頭。



みんなの好きな遊び場はどんなところ? のぞいてみよう。

池に点在している土の島に、
竹の橋を架けよう!と奮闘。
友達も集まってきて、
何度も渡って遊びます。



二人だけの特等席。
一緒に遊びたいものを持ち込んで過ごしています。

体と空間

子どもたちは、自分が見つけた
場所や空間で遊ぶことを通して、
その場所がもつ特徴(広さ、奥行
き、形、明るさ、暖かさなど)に
自然に気づきます。体を通して空
間を知るのです。これは、小学
校図画工作科の造形遊びと結び
つく経験でもあります。



春の暖かい日が差し込む場所で、
思いのままにお絵かき。

幼×小 新1年生を迎える心構え

大好きな園や先生のもとを離れ、小学校に入学してくる子どもたち。新しく子どもたちを迎え入れる先生や学校は、どんな心の準備が必要でしょうか？幼稚園と小学校、双方の視点から語っていただきました。



畑本 真澄 先生
(神戸市立だいいち小学校 教諭)

三木 扶美子 先生
(神戸市立兵庫くすのき幼稚園 園長)

丁子 かおる 先生
(和歌山大学 准教授)

*三：三木先生、畑：畑本先生、丁：丁子先生

遊びの中で学んでいる

一幼稚園や保育園、こども園で子どもたちがしている遊びには、どんな意味があるんですか。

三 実は子どもたちって、楽しく遊ぶ中でいろんな発見をしているんですよ。たとえば水鉄砲で遊んでいる子に「水がすごく飛んだね！上に向けたんだね」と言うと、よく水が飛ぶ角度があることに自然と気づきます。「無自覚の自覚化」って言って、先生が「すごい発見したね！」と認めたり言語化したりすることで子ども自身が気づき、学びにつながっていきます。

畑 実体験ってずっと残りますよね。小さい頃は特に、体の感覚ぜんぶで見たこと感じたことをキャッチするから、体の奥にどんどんたまっていく感じ。遊んでいるときは楽しくて夢中になっているだけだけど、小学校で教科の学習に触れたときに、「知ってる、やったことある！」って思い出すんですよ。実感した喜びとか感動、発見って、なくなるから。

丁 子どもって実験する人だし、探究する人なんですよね。もっと遊びをおもしろくしようと工夫して「遊び込む」。主体的な学びの姿ですよ。三木先生のお話のように、周りの大人が「すごいね！」と支えてくれることで、ちっちゃな挑戦心を持ち続けることができます。

「指示」から「自分で気づく」へ

一入学当初の子どもへの接し方や声かけで、気を付けたいのはどんなことでしょうか？

畑 担任の先生は、35人を「集団」として早くまとめなきゃ！という思いから、つい「指示」になりがちかなと思います。私も含め、板書や口頭だけの指示で、全員に伝わったつもりになっ

てしまうことがあります。園の先生の子どもへの声かけてすごくすてきなあととっていて。子ども一人一人にちゃんと目が向いていて、表情や身振り手振りと一緒に伝えてますよね。

三 たとえば「長い針が6になったら片付けだよ」と最初に伝えたとして。少したったら「4になったね、あと少しだね～」とさりげなく全体に声かけしながら、誰が気づくかな？と観察しています。気づいて片付け始めた子がいたら、「すごい、〇〇ちゃん時計見てたんだ！」とすかさずほめたり。「片付けなさい」と指示するんじゃなくて、子どもが自分で気づける声かけを常に意識しています。自分で考えて決めたことって、その子の自信になるから。

畑 主語が子どもなんですよね。先生が、じゃなくて。何手先まで読んでるんやろ、って思います(笑)。

丁 実は先生が仕掛けてるんですよ(笑)。全員が気づけなくてもよくて、友達が片付け始めたのを見て「あっ」と気がつく子もいる。「もう片付けの時間だよ」と友達に教えてあげる子もいますよね。そうやって助け合う経験って大事です。集団で生活するよさ、学び合いの姿ですよ。

子どもの話が聞こえてくる職員室に

一1年生の担当になる先生は、「自分がクラスをまとめなくちゃ」という気負いがあるように思えます。

三 私たちの園では、先生同士が日頃から子どもの話をよくしています。「〇〇ちゃん、なかなか遊び道具を譲れなかったのに、今日はどうぞってできてたよ！」とか、ほんのささいなことです。あくまで雑談なんですけど、先生たち

の意識の底には、言語能力とか人間関係とか、ちゃんと力が育ってきているんだなって実感があると思います。

畑 小学校でも、「今日〇〇ちゃんがこんなことして、かわかった～！」って子どもの話がたくさん聞こえてくる職員室がいいなと思います。子どもの小さな変化や成長と一緒に喜び合える職員関係がいいですね。

三 先生同士で話すことで、子どもを見取る力も磨かれるなど感じます。自分が見ている子どもの姿ってどうしても主観だから、ほかの先生の視点も知ることで、「そんな一面もあったんだ！」と多面的に捉えられるようになるんですね。

丁 どの先生も自分のことを見てくれているという安心感は、子どもにとっても大切です。教室を飛び出していってしまう子がいても、ほかの先生がフォローに入ってくると分かれば、先生自身も安心できると思います。園でも学校でも、担任の先生が一人で抱え込まずに組織全体で支える「チーム」になることが大事だと思います。

表現はその子自身

—子どもの絵や作品を介して話すと、先生同士の対話が盛り上がりそうですね。

畑 やっぱ「その子」が見えてくるからですね。作品はその子そのものなので、話の真ん中に子どもがいると楽しくなります。

三 表現ってぜんぶのもとの、人間の素地になると思っています。小さい子どもはまだ言語がままならないので、表情、身振り手振り、態度、ぜんぶを使って自分の気持ちを表現します。絵や作品、造形もその一つですね。子どもの絵っ

て、「私のケーキはイチゴがいっぱいのって、すごくいい匂いがする」というその子のイメージや感情があふれてますよね。先生が「イチゴがいっぱいなんだね！」って言うだけで、子どもは自分が受け止めてもらえた、自分はこれでいいんだって安心できます。

畑 自己肯定感がベースにないと、次に挑戦していく勇気が出ないですね。幼い頃に、共感してもらったり認めてもらったりした経験が十分にある子は、小学校に上がって壁にぶつかっても、ちゃんと次のチャレンジができるように感じます。

丁 ちゃんと聞いてもらえる私ってすごい存在、っていう安心感がないと自己発揮できないですね。そのためには、受け止めてくれる大人が周りにいることが本当に大切です。

畑 私たちが本来育てたいのって、「もっとこうしたい！」と思いをもち活動できる子どもだったはず。いわゆる「指示待ち」では、社会に出て困るのは子どもたちですね。自らの力で幸せに生きることができるよう育てることが、私たちの責任だと強く感じています。

大人の概念にとらわれないで

—新1年生をこれから迎える先生たちに、メッセージをお願いします。

三 大人の概念で判断しないでほしいなと思います。幼稚園でも、たとえば新任の先生が「木は茶色、葉っぱは緑」って、自分の価値観を疑わずに決めつけちゃってるときもあります。そういう先生には、一緒にチューリップの花を見に行っ、「ほら、葉っぱに光が当たって白く見えるところがあるよね」と話すんです。すると「あっ、ほんとですね！ こんなふうにか

絵から子どもの声を聴こう



周りの黒い小さな点々、なんだかわかりますか？

いい匂い、とかかな？

アリなんです！ チョコレートケーキを食べにきてるんです。

すごい！ アリさんのこと知ってるんだ～。あまくておいしいから、アリもいっぱい集まってくるんですね。

かきながら「これがイチゴクリームで～」って、どんどんお話が膨らんでますよね。

「クリームは白、イチゴは赤ね」って先生が決めちゃったら、この絵は生まれてこないですね。

その子がちゃんと見えてくるから、おもしろいんですね。



たら、すてきですね」と意識が変わってきます。用意する絵の具の色も変わってきますよね。一緒に寄り添って、自分で感じたり考えたりしながら育っていくのは、子どもも大人も同じですね(笑)。

丁 子どもたちの未来って、今とは全然違う世界をつくっていかないといけないんですね。だから、大人の概念や枠組みに子どもをおさめようとして、本来もっている創造性を奪ってはいけないなと思います。

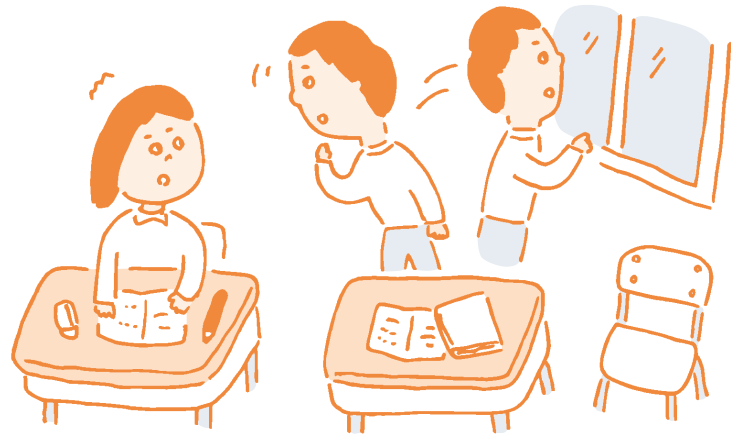
畑 一人一人のおもしろいところや成長を一緒

に楽しめたらいいですね。先生の特権だなんていつも思ってるんです。その子の思考とか、過程や成長、すてきなところを私が一番知ってるんだぞって(笑)。

丁 子どもっておもしろいでもんね(笑)。幼児期や10代って人間形成のベースになるすごく大事な時期です。「みんな同じ」の社会じゃなくて、私はこう、ってそれぞれが自分で選択できる、多様で豊かな社会をつくってほしいなと思います。

視点スイッチ! 「〇〇させなきゃ!」から
「どうして〇〇するんだろう?」へ

園での生活や経験はバラバラ。得意なこと・苦手なことは一人一人違います。
「はじめて」だらけの1年生、すぐにはできないこともあって当然!
子どもの視点に立って、行動の理由や背景を考えてみましょう。



椅子に座ってられない、立ち歩いてしまう……。

座らせなきゃ! じっとさせなきゃ!



どうして立ち歩いているんだろう。
気になることがあるのかな?

- 長い時間椅子に座っているのがつらいのかな。
- 運動場やとなりのクラスから聞こえてくる音が気になるのかな。
- そもそも、今なにをする時間なのか伝わっていないのかも。



登校してすぐ、校門で泣き出し、動けなくなってしまう……。

教室に行かせなきゃ! クラスに慣れさせなきゃ!



不安なことがあるのかな?
なにが心配なんだろう?

- 新しいことだらけで、今日はなにをするのか見通しがもてなくて不安なのかな。
- 困ったことがあっても、先生に言うタイミングや伝え方が分からないのかも。

MESSAGE

子どもはみんな
「頑張りたい、できるようになりたい」
と思っている!



畑本 真澄先生 (神戸市立だいいち小学校)

立ち歩く、泣くといった行動には、「頑張りたい、でもできない」と困っている気持ちが隠れています。小さなことでも、頑張っている姿をどんどんほめましょう。共感し認めてくれる人がいれば、学校は安心できる場になっていきます。

まずはここから →

「10の姿」の全文はこちらから。↓

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿



幼稚園教育要領では、小学校との連携を図り、入学後も連続して子どもの資質・能力を育んでいくことを目的として、園修了時の幼児の具体的な姿を10の姿として示しています（以下は、簡略化して紹介）^{*1,2}。10の姿はあくまでも目安であり方向性です。全ての幼児に同じように見られるものではないことに留意しましょう。

*1: 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にも同じ内容が示されています。

*2: 6と10は特に図画工作科と関連が深い姿です。（参考：文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編」P110）

1. 健康な心と体

自分のやりたいことに、心と体を十分に働かせ、見通しをもって取り組むようになる。

2. 自立心

しなければならないことを自覚し、考え、工夫し、自信をもって行動するようになる。

3. 協同性

互いの思いや考えを共有し、共通の目的実現へ、考え、工夫し、協力しやり遂げるようになる。

4. 道徳性・規範意識の芽生え

してよい・悪いが分かり、気持ちを調整、友達と折り合いを付け、きまりをつくり、守る。

5. 社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ち、地域へ親しみをもち、社会とのつながりを意識する。

6. 思考力の芽生え

物の性質や仕組みなどを感じ取り、多様な関わりを楽しみ、友達の自分と異なる考えから新しい考えを生み出す喜びを味わい、自分の考えをよりよいものにするようになる。

7. 自然との関わり・生命尊重

身近な事象への関心や、自然への愛情や畏敬の念をもち、身近な動植物を大切に关わる。

8. 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ね、興味や関心、感覚をもつようになる。

9. 言葉による伝え合い

豊かな言葉や表現を身に付け、経験や考えを伝え、話を聞き、言葉による伝え合いを楽しむ。

10. 豊かな感性と表現

感じたことや考えたことを表現し、友達と楽しみ、表現する喜びを味わい、意欲をもつ。

引き続き

先生同士でたくさん話そう

入学してくる子どもたちのことを、誰より知っている保育者の先生。エピソードを深掘りすると、一人一人の性格や特性が浮かび上がってきます。



Aさんはつくるのが大好きなんです。グループのリーダーになって船をつくっていました。



「感性と表現」、「協同性」の力が育ってきている証拠ですね。

でも、友達とよくけんかしちゃうんですね……。



どんな場面でけんかに？



自分のこだわる気持ちが大きくなっちゃうと、友達の話が聞けなくなって、言葉が強くなったり、手が出ちゃったり……。



こだわる気持ちは大事にしてあげたいですね。

小学校では、いろいろな友達の表現のおもしろさにも目を向けられるようにしていきたいですね。



- 10の姿と照らし合わせながら、どんな力が育ってきているのか読み取る。
- 目に見える行為や現象だけでなく、そのときの状況や背景も聞こう。
- 入学後も、気になる子どもや困ったことがあれば、園の先生に相談しよう。

入学前に、園の見学にも行ってみよう！

かく・つくるなどの造形的な活動は、
幼児期の遊びを通して経験しており、子どもたちも大好き。
「やったことある、できる」「好き、楽しい」を引き出して、
小学校の学習へとつないでいきましょう。

たとえば

体の感覚を働かせる活動を取り入れる



図工の教科書では

- ・ちよきちよきかざり (P12-13)
 - ・すなやつちとなかよし (P14-15)
 - ・ひもひもねんど (P18-19)
- *1

視覚・触覚・聴覚など体の感覚が働くことが
気づきを促します。全身で感触を味わう活動や、
用具を使いながら手や指先の感覚を働かせる
活動などを取り入れるとよいでしょう。



「教科書を読んで理解」は、まだ難しい

言葉で聞いたり読んだりして、概念的に理解することはまだ難しいです。自分の目で見えて触って、
感覚的に理解していきます。幼児期の学び方に近い、**体験的な活動を取り入れる**とよいでしょう。

たとえば

自分の思いを表現できる時間を設ける



休み時間などに、
自分の好きな遊びを選んで
活動できるスペースを設ける。

先生も、子どもの好きなことや
考えていることが分かる。



図工の教科書では

- ・かきたいものなあに (P10-11)
 - ・ごちそうパーティーはじめよう! (P26-27)
- *2

入学当初、自分の気持ちをなかなか言葉に
できない子どももいます。かく、つくるな
どの行為は、自由に表現することを楽しむ
中で、自然とその子の思いや気持ちが表れ
てきます。「先生にも伝わった」という安
心感にもつながりやすいでしょう。



「安心」が楽しい学びのベースになる

入学当初の子どもたちは、環境が大きく変わり、不安で緊張している状態です。笑顔で接する、認
める言葉がけをするなどの**共感的な態度がなにより大切**です。「先生が見てくれている」という安
心のもとで、学びに向かうことができます。また、**活動の見通しがもてるように**、一日の予定や活
動の手順などは掲示物なども活用して視覚情報と一緒に伝えるとよいでしょう。

あとがき

通っていた園はそれぞれ違いますが、子どもたちは本冊子で見られるように6年間を通してできることを一つずつ増やして育ち、就学までに友達と協力して遊びで達成感を得るなどいろいろな経験をしてきました。幼児教育では、自発的な遊びを通して学んでいるので、自分なりにやってみようとする意欲や、やりたいという気持ちをもっています。幼児期から表現活動は経験しているので、安心して楽しめたり、創造的なこともできる図工の時間は、新しい生活でも自分を取り戻せる時間であり、先生と子どもたちが、互いに心が通じ合える時間です。造形では、本来の子どもの姿や内面を表現から見るすることができます。先生が、おもしろがって一人一人のユニークな発想やすてきな表現を見つけ、言葉や態度で認め、子どもが少しでも自己表現や自己実現ができるようにしてあげてください。先生が気負いすぎず、子どもを信じて、一緒に喜んだり楽しんだりしてくれれば、気がつけば子どもは、先生が大好きになり、学校に行くのが楽しみにになります。



この冊子は、植物油インキを使用し、環境にやさしい水なし方式で印刷しています。また、印刷用紙にはFSC®の認証紙を使用しています。

監修者

丁子 かおる 和歌山大学教育学部 准教授

神戸市出身。筑波大学大学院博士課程修了、博士(芸術学)。神戸市立小学校(図画工作科専科)などでの勤務経験があり、大阪国際大学短期大学部、福岡教育大学を経て、2012年より現職。保育内容(造形表現)、図画工作科、美術科の指導法などの授業を担当。日本美術教育連盟理事、美術科教育学会乳・幼児造形研究部会事務局などを務める。造形による幼保小接続などを研究。趣味はヨガと沖縄旅行。著書は『造形表現・図画工作』(建帛社、2014)など。



乳・幼児造形研究部会がまとめた「乳・幼児の造形が気づかせてくれる10のこと」はこちらから。

取材・写真協力

清心幼稚園(東京都)

認定こども園あかさかルンビニー園(佐賀県)

認定こども園やわらぎ幼稚園(大阪府)

神戸市立兵庫くすのき幼稚園(兵庫県)

鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園(神奈川県)

和歌山市立西脇幼稚園(和歌山県)

京都幼年美術の会

デザイン 矢部綾子(kidd)

イラスト 北野 有(P26-31)

取材・執筆協力 小倉康平、川崎友里恵

(株式会社クリエイティブ・スイート) (P22-25)

写真 小倉亜沙子 川瀬一絵 杉山亜希子 田中秀樹

濱田陽守 山本顕史

印刷・製本 河北印刷株式会社

編集・発行 日本文教出版株式会社



5歳児クラスの子どもたちがつくったランドセル。その中身は…!?



幼保小接続はじめの一步 ～図工でつながる育ちと学び～

日文 教授用資料

令和5年(2023年)1月10日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社

〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5

TEL:06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33603

日本文教出版 株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F・B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-11
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690

令和2年(2020年)度版小学校図画工作科内容解説資料として扱われます。